

# 死後の悩みをすべて解決 遺品整理という「仕事」

死臭除去から遺品供養まで  
遺族の悩みを徹底サポート

身内に訃報があると、死者の遺品整理をする必要がある。箆笥などの家具、貴重品、思い出の写真などは遺族が形見わけをし、布団など不要なものは処分、ないしは供養する。しかし、自殺や孤独死が部屋であり、長時間経過して死体が発見された場合、部屋の清掃、脱臭は困難を極める。

吉田太一氏は02年、日本初の遺品整理専門の会社「キーバース」を立ち上げた。そこには大切な人を亡くした様々な人から依頼があるが、中には、自殺や孤独死の後始末に苦慮する遺族からのものもある。

「年間約2000件の仕事のうち、自殺や孤独死のケースは300件近く。死臭がきつい場合、まずこれを取り除かねば、大家さんやご近所の方の迷惑となり、クレームとなつてご遺族の負担となってしまいます」

このような場合を想定し、同社では独自に脱臭法の研究を行った。結果、専用の機器を設置し、最大2週間脱臭すればほぼ死臭を消すことができるサービスを確立した。その費用は、35万円だという。

整理した遺品は遺族に分け、処分に困るものは社で合同供養に供する。死後、必要な全ての整理作業を一括して行うわけだ。



吉田太一／キーバース代表取締役。02年に同社設立。自身の現場での体験をブログに綴り、大きな反響を得る。著書『遺品整理屋は見た!』シリーズ(写真)は08年夏、テレビドラマ化される

「初めは、遺品整理はお金をもらってやるべきことなのか、という葛藤もありました。自殺とか孤独死の場合は、特にそうでした。しかし、藁をも掴む思いのご遺族の方は、作業後、大変感謝してくださいます。それが現在では、私の大きな原動力です」

## 現場を見た人間だからこそ 語れる「生命の価値」

吉田氏は遺品整理業の傍ら、体験を元に孤独死の防止を訴えるビデオを製作したり、講演を行うなど、啓蒙活動にも力を注ぐ。

「大家さんと遺族の間でトラブルが生じたり、遺族の方が立ち直れないほど傷ついている場面をたくさん見てきました。やはり、親族やご近所との心のつながりを大切に、自殺や孤独死を未然に防止する社会を作らなければならない、と強く感じます。そうした活動によって私の仕事を減らすことになれば、本望です」